こらっせは 開館10年を迎えました

こらっせ開館十周年

地域史料保全有志の会
代表
白水 智氏

２０１６年８月６日、真夏の炎天下でこらっせは開館した。人が常駐し、人が憩い、人が昔の道具や古文書に寄り添い、人が歴史文化を感じられる、そんな施設になってほしいと願いながらあの日を迎えた。「復興基金をつぎ込んだだけの価値があったね」、そううなずいてもらえる施設になってほしかった。

あれから10年。小さな村の小さな資料館ではあり、人が押し寄せるような施設ではなかったが、少しずつでも人が途切れることなく訪ね、いつも温かく迎える人がいる、そしてそこに行けば村の文化がわかる、村の文化が学べる、そして文化を語る素材がたくさん収蔵されている、そんな文化館にこらっせはなった。今もこらっせを拠点に続く文化財保全活動を通して、参加者同士の無数のつながりも栄村を起点に生まれた。参加者は全国各地の地元に帰って栄村を語り、それがまた人を呼ぶ。こらっせは人々をつなぐ「種」を生む場になった。小さな村の英断が日本各地で文化を花開かせているのだと思う。

こらっせ十周年にあたり

民具班リーダー
石野律子氏

震災後、私が初めて文化財レスキューで村に入ったのは２０１１年６月、それ以降ほぼ毎月通い、傾いた民家や蔵から民具などを救出した。それらの主な保管場所は震災で何とか耐えた志久見の廃校であった。

最近、寄贈された民具の廃棄が全国的な社会問題になっていることをご存じだろうか。それは廃校を再利用した施設にしたまでは良かったが、その後建物が老朽化し耐震基準から外れてしまったことが一因であった。私は既に20年も前から全国的な民具の悲鳴を目のあたりにしていたから、活動当初栄村の民具たちの未来を案じながらレスキュー活動していた頃が懐かしい。５年後、村は廃校に耐震補強を施し栄村にはなかった歴史文化施設こらっせを誕生させた。それは村民と私たちの会との協働作業があったからこそ完成に至った施設である。大らかで誰でも受け入れてくださり、一緒に活動してくださった村民の皆さまのお陰です。次は20周年が迎えられますように。

こらっせの歩みに寄り添って

文化財レスキュー
考古班
高橋健樹氏

こらっせ創立10周年、おめでとう！

こらっせの成長に関われたことを、文化財レスキュー考古班の一員として、心から感謝します。

最初に栄村に関わったのは、「旧志久見分校」からレスキューされた文化財の移動で、二階にあった「考古資料」の運び出しであった。こらっせ完成の際には、二階の「歴史文化館」に考古資料の展示を指示されて、教育委員会保管の資料を中心に、できる限り栄村の縄文時代を再現すべく苦労したことを思い出す。そして、「ひんご遺跡」発掘調査がきっかけで、現在の考古資料展示へと発展していった。発掘調査に関わった方々、教育委員会やこらっせの関係者の方々の思いに応えようとの思いで、現在の展示にたどり着いた。

「こらっせは見に来る所ではなく居座る所である」と私は思う。居座って生活の一部としていただき、語り合えれば最高です。ぜひ、こらっせに足をお運びください。

こらっせの十年間

こらっせ管理人
広瀬幸利氏

私がここで働くようになってから十年がすぎました。

この間に身体を壊し、入院３回を経験したのですが、そのたびに周りの皆さんの温かいサポートを受けて、退院後はまた元の仕事に復帰でき本当に幸せでした。この場を借りて皆さんにお礼申し上げます。

こらっせの管理人という仕事は、一般に言う施設の管理の他に、来館者への展示物の説明、近隣の道案内など結構広範囲に渡るものになります。

そんな中でわたしは、自分が体験した事全てを使って、お客様に栄村を伝えようと思い対応しています。もちろん、関心が薄いお客様もいますが、少しでも関心を示してくれたお客様には、栄村の良い事、悪い事全て伝えています。

公民館報 さかえ
第372号
令和８年９月１日発行

■ 発行
栄村公民館
〒389-2703
長野県下水内郡栄村
大字堺9214-1

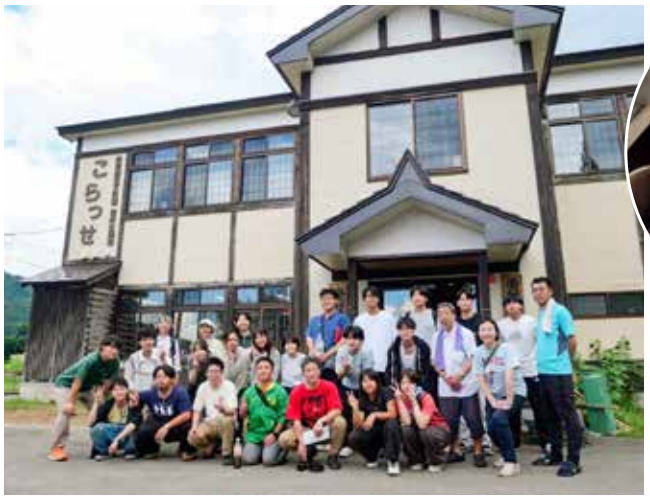
■ 電話
0269-87-2100

■ 編集
栄村公民館報編集委員会

こらっせ祭り 開催

８月17日㈪と18日㈫に、志久見にある栄村歴史文化館 こらっせで「こらっせ祭り」が開催されました。これは、こらっせ開館10周年と、地域史料保全有志の会の保全活動100回を記念して、地域史料保全有志の会が主催して行われました。２日間で78名の方にご参加していただきました。地域史料保全有志の会 運営チームを代表して３人にお話を伺いました。

＊これまでの10年間で17,828名もの方々に、ご来館いただきました。



群馬県みなかみ町教育委員　水落建哉

「こらっせ祭り」をしよう！となったのは、今年４月30日の話し合いでした。３か月半で企画から運営まで実施したことは今でも信じられませんが、公民館と有志の会の協働に加えて、村の強力なバックアップのおかげです。文献と民具と考古、文化財と社会教育と地域づくり、学びと体験と遊び、などなど、様々な価値観や目的のすり合わせが大変でしたが、稀有な連携によるイベントが実現できたと確信しています。広くゆるやかな射程で、楽しく美味しく学びになる活動に、今後も参加していきたいです。

埼玉県在住　岡部恵海

「こらっせ祭り」という記念イベントに関わらせていただけたことを、とても嬉しく思っています。長野県に縁のなかった私ですが、栄村に来て文化に触れ、短い期間の中で多くの学びをいただきました。気づけば一年のうちにすっかり栄村に〝沼って〟しまい、美味しい食べ物、豊かな自然、美しい星空、そして優しい村の皆さん。何度も心をつかまれました。沼から抜け出せそうもありません。美しく、美味しく活動を続けられているのは、栄村のすべてのおかげです。これからも交流を重ねながら栄村を学び、その学びを還元する循環を続けていきたいと思います。

杉並区立郷土博物館　原口潤也

改めて、こらっせ10周年おめでとうございます！私は、こらっせ祭りでは運営に関わらせていただき、普段の有志の会の活動では文献班として、クイズラリーの古文書パートや白水先生による古文書講座に特に関わらせていただきました。

クイズラリー当日は、「わかりやすかった」「答えを探すのが楽しかった」「難しかった」など、参加者からさまざまな感想を聞くことができ、参加者の皆さんがそれぞれに感じたことを持ち帰ってくださったことを大変うれしく思いました。また、クイズや古文書講座について考える中で、展示の奥深さや白水先生のすごさを改めて実感し、こらっせが開館してからの10年に思いを馳せる機会にもなりました。こうしたことを感じられたのも、こらっせの運営に関わらせていただいたからこそであり、とても幸せな経験でした！

レンズを通してみる栄
第10回
～こらっせ祭り～

こらっせ
祭り
始まるよ♪

そば打ちの神髄を披露

クイズラリーはこちらから

流しそうめん

火焔型
ひんごさん
クッキー

子どもたちも参加

秋山郷ジェラートの
お味はいかか？

栄村の自慢の味を

古文書講座　真剣な表情で

雪ん子に変身

持ち寄ってBBQ

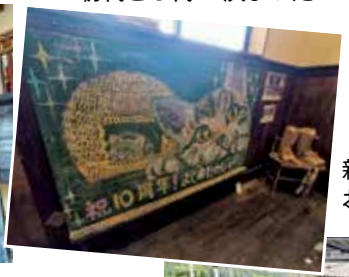
勾玉つくり

初代と３代！ 決まった!!

村長来館

当たり!!かな？

保全活動99回のあゆみ



新しくなって
お迎えいたします

特設プールも賑わって

美味しいお蕎麦になれ～

歴代館長勢ぞろい

あーそんなことがあったんか ～ど先生の栄村昔語り～ 其の七十六

小学校の先生の手紙（続き）

地域史料保全有志の会
鈴木 努（通称：ど先生）
イラスト作成：佐藤洋平

酷暑に豪雨に早天という夏が過ぎ、九月となりました。いかがお過ごしですか。去る八月に栄村歴史文化館「こらっせ」が開館十周年を迎えました。さらに栄村で民具や古文書の保全活動をしてきました地域史料保全有志の会の活動百回記念も重なり、これを祝ってこらっせ祭りが賑やかに催されました。「こらっせ」が開館式を行い、資料館として本格オープンしたのが二〇一六（平成一八）年八月六日（公民館としては同年四月から開館）のこと、あれから十年、変わらず愛されている姿を見るのはまことに嬉しいです。

手紙の続きを読んでいきます。「次ニ」で始まる段落で、秋山のことがあれこれ書かれています。

「次ニ秋山ノ（イハ山）（金山）も愈々開かんとして人民入込、旅舎は申すに及ばず小生迄も繁雑を極め居り候処、丁度中野三種講習生旅行ト来り、尚下高井郡長閣下御巡回とあられ候故、旅舎方にては一人も泊めかね候故惣代若くは学校に五六名も泊める様郡長閣下より使を遣し候処、折節小生風引にて后々七時頃より臥し居り候処、使は学校の先生は最早夜遊びに出で不在と申上候処、大ニ失敬赤面の至り、其翌日の教授ハ講習生参観となりをれば生徒は驚様の有様にて宜しからず、実に残念の至りに候、小生の意に耐へ兼候故一寸申上候」

明治三四年七月のこと、「イハ山」「金山」が開かれるというので秋山郷に人々が大勢詰めかけている様子です。秋山にあって「イハ山」「金山」と呼ばれているものが何なのか。ご存じのとおり切明にはかつて銅山が稼働しており、これを目当てに大勢の人が出入りしていた歴史があります（『栄村誌』など）。また、手紙より遡りますが明治十二年（一八七九）の堺村「村内概況取調書」には「字秋山赤倉山は金鉱があると言われるが口碑伝承だけで品質不詳」とあって、「金山」が鉱山に関わる何かで、それが人々を引き寄せたようにも見えます。夢のある話ですが「イハ山」とセットの何かで、信仰や行事に関わる可能性もあるので結論は控えます。ちなみに明治二八年制定の狩猟法施行規則では、七月一六日は牝鹿猟の解禁日だそうです。

人々が詰めかけたため、「旅舎」どころか鈴木松太郎先生まで大忙しだったようです。「旅舎」は小赤沢の宿屋・山田六之丞（いまの秋山館）でしょう。ここは明治二九年（一八九六）八月に秋山郷を訪ねた高野辰之が宿を取ったところです（「コラム11　秋山を訪れた青年高野辰之」『栄村誌』）。「繁雑を極め」ているところに『信濃教育会雑誌』（現在の『信濃教育』）に高野が寄せた「秋山記行」に触発されたか、第三種講習生の中野某が旅行に来ました。講習生とは当時の教員養成方法の一つで、正規に師範学校に入学しなくとも講習を受けることで教員資格を得られるようにする（初期には修了後に検定試験を受ける必要がありました）方策で、第三種は授業生など無資格教員の経験者か全くの未経験者向けに尋常小学校準教員の資格を取れるように設けたものです。さらに下高井郡長の平林斧吉が巡回に来るというので宿にはもう一人も泊められない、となり、郡長が小赤沢の惣代の家か学校に五、六人くらい宿泊できないか、と使いを送ってきました。学校は当時の秋山郷で数少ない公共施設、教員も数少ない公職だったと思われ、鈴木松太郎先生も何かと駆り出されたのでしょう。

あいにく風邪引きで早寝したため使者に応対できず、「学校の先生は夜遊びに行って不在」と言い立てられてしまった鈴木松太郎先生は大いに面目を失し少々憤っている様子です。翌日の中野某の授業参観は事前の相談が出来ないまま行ったのか、生徒を驚かせることになってしまいました。この一件が手紙を書く動機の一つだったことは容易に想像できます。「風邪引いてたんだよ」と事情を言っておきたかったのでしょう。

続きます。

栄村公民館 図書室だより

2026.9

栄村公民館図書室でも大人気の東野圭吾さんがお亡くなりになりました。
残念に思っている読者も多くいることでしょう。ご冥福をお祈り申し上げます。
今回は1998年５月に発売されシリーズ化したガリレオシリーズを一覧にしました。読み忘れているものがあれば図書室に来てくださいね。

【ガリレオシリーズ】発行年順

・探偵ガリレオ
・予知夢
・容疑者Ｘの献身
・聖女の救済
・ガリレオの苦悩
・真夏の方程式
・虚像の道化師
・禁断の魔術
・沈黙のパレード
・透明な螺旋
・永遠の記憶

なかでも『容疑者Ｘの献身』は第134回直木賞受賞作。第６回本格ミステリ大賞受賞。2005年度の国内の主要ミステリランキング「本格ミステリ・ベスト10」「このミステリーがすごい！」「週刊文春ミステリベスト10」すべて１位獲得、エドガー賞（MWA主催）候補作にもなりました。

定期購入している雑誌紹介

前回はＮＨＫテキスト『きょうの健康』を紹介しました。今回は長野こまちの紹介です。この雑誌は季刊誌なので季節ごとに年４回届きます。ホームページによると『毎日をもっと満足＆ハッピーにする長野県内の女性へ向けたタウン情報誌。好奇心をくすぐるグルメ情報やおでかけ先がきっと見つかるはず。』と紹介されています。ぺらぺらめくって、面白そう!!おいしそう!!を見つけませんか？

図書寄贈に関するお願い

寄贈していただける資料は、直接公民館図書室へお持ちください。

〈ご注意いただきたいこと〉

・状態や内容によっては、お受け取りできない場合があります。（書き込みがあるなど）
・寄贈後の取り扱い（館内での所蔵、または処分やブックリサイクルでの活用など）は、すべて公民館に一任させていただきます。返却などはいたしかねますので、あらかじめご了承ください。

★栄村図書室開放時間★

平　日　午前８時半～午後５時
土・日　午前９時～正午
※祝日は休館します

★休館日のお知らせ★

祝日等で休館が多く、
ご不便をおかけします

９月19日(土)～23日(水)
９月26日(土)～27日(日)
10月10日(土)～12日(月)

★栄村図書室前ブックリサイクル★

図書室前（教育委員会事務局）でブックリサイクルを随時行っております。図書室で役目を終えた本がメインです。全て無料です。ぜひお立ち寄りください。

栄村 祭りと子どもたち

今年も各集落で祭りが執り行われました。今回、祭りに関わる子どもたちに話を伺いました。

●月岡大翔（つきおかひろと）さん（９歳）白鳥

・祭りに太鼓で参加するのは何回目？
栄ふるさと太鼓はしていて。祭りは初めて。初めてのことにチャレンジしたい！

・栄ふるさと太鼓との違いはありますか？
祭りはリズムが違うし、太鼓が２個あるし、音が違う。ふるさと太鼓は立ってする。

・月岡利郎さんが先生ですね。
３、４回教えてもらって、わかりやすくて叩きやすいです。（利郎さんからみた大翔さんは？　すごく上手。すぐ覚えるしな。いいよ！）

・祭りは？
楽しい！獅子舞の振付とかすごいなぁ。かっこいい！

●山田駿介（やまだしゅんすけ）さん（12歳）長瀬

・どんなきっかけで、いつから参加していますか？
小学４年の時から、３回。それまで10年ぶりのサイトリ舞で、やってみたらと言われて。見たことがなくどういう舞か不安があったけどDVDを観たり、経験者の斉藤碧人さんや斉藤英人さんが教えてくれたのですごく難しくはなかった。

・練習はどれくらいしますか？
９月に入ってから、祭りまで２週間くらい。午後６時頃から、30分から１時間くらい。

・大変なことは何ですか？
２回舞うこと。時間が公民館で午後９時に、神社で深夜０時にするのが大変。１回の舞いに１部と２部があって、１部はサイトリ舞、２部がうんずら舞をします。

・舞っているときはどんなことを考えたりしますか？
“指先をみる”とか“踊りを激しく”とかアドバイスを思い出してしています。

・祭りについて思うことは？
地域の伝統だからある程度妥協をしながらも続けていった方がいいと思う。時代も変わり少子高齢化なので、昔のしきたりに従ってずっと同じというのはちょっと難しくなってくると思う。

1992年頃から少子高齢化と言われ始め、もう随分と経ちました。栄村でも例外ではありません。その中でも子どもたちが自らの思いをもって、集落の伝統行事（神事）に参加している姿は微笑ましく、明るい未来に希望が持てました。白鳥の祭りは８月に終わりましたが、長瀬は９月12日の夜、本番を迎えます。この記事を書いている時点では、駿介さんが舞うのか、弟の凌介さん（６歳）が初めて舞うのかは未定だそう。本番が楽しみです。

（編集委員　関沢）

ようこそ 栄村

〈青倉〉佐藤 知也さん
真依子さん
麦さん
蕗さん
福太郎さん

Q．栄村での暮らしはいかがですか？
今年の４月に越してきたばかりですが、以前暮らしていた新潟市内から比べると自然が豊かで山が近いのが良いです。
今は、農業法人に勤めているので休みながらですが、継続してキッチンカーをやっていきたいです。近所の畑を借りて、大豆や小豆などの豆類やパクチーなどのハーブなどを育てキッチンカーで提供するカレーに使っています。仕事でも自分でやっていることでも、野菜の育つ様子を見るのが楽しく、息抜きになっています。

Q．今後やりたいことはありますか？
前にも遊びに行ったことがありますが、冬はさかえ倶楽部スキー場に家族で行こうと思っています。
まだ越してきたばかりなので今のところ大変なことはあまり感じないですが、暮らしていく中で、色んな人と関りを持って暮らしていけたらと思います。

今月の一句 ～栄村俳句会～

高きより見下ろす千曲川好きな場所
楽しみは木々も色かえ姿かえ
関谷貞子

吾（あ）の誕生　知らず父戦死　敗戦日
桃の木を定宿にしてミンミン鳴く
柳　静江

ひぐらしの鳴き声ききつ母偲ぶ
老犬の達者を祈る露の道
山田邦江

田の水を夕陽とともに見廻りす
暑さ負け眠れぬ夜に見る星か
杉浦　仁

電柱に葛の葉からまりモンスター
さえが好きカブトクワガタダンゴムシ
杉浦咲衣

白ピンク背筋伸ばして立葵
尾花咲くめぐる季節の早きこと
杉浦恵子

俳句の会への参加や俳句の投稿募集しています！
ご興味がある方は栄村公民館（☎87-3118）までお電話ください。

編集後記

栄村は今年も猛暑の夏でした。お盆を過ぎると日ごとに涼しさが増して秋の気配を感じていたのは一昔前、昨今は９月になっても酷い残暑が続いています。農業用水も少なく、水稲の高温障害が心配されます。
お盆を迎えてご先祖様の供養やお祭りにと忙しくされたことと思います。近頃は熊本地震や千葉の水害などが日本列島を騒がせており、何かと不安な思いがあります。お盆にご先祖様を迎えてご家族のルーツを思い、来し方行く末に静かに思いを馳せるのもよい機会ではないでしょうか。（宮）